



先生方にお聞きしました！

～思い出に残るお弁当について～



園長先生 母は幼稚園の仕事に追われ走り回る毎日。コンビニも給食屋さんもない時代でしたから、手づくりするしかありません。お弁当の蓋を開けると、「ふうっ、またか…」いつでも白米と煮物—醤油で煮しめた根菜類—が**ガツン**と入っていました。料理の腕自体は決して悪くはありませんでしたが、白と茶色のそれはそれは地味な配色で、友達のカラフルでジグソーパズルのようなお弁当が羨ましかったものです。自分が母親になると、「よしっ！」とばかりに、楽しんで凝ったお弁当を作ったものの、息子の幼い時だけ。長くは続きませんでした。先日 fami ちゃんのお弁当グッズが発掘され、感慨しきり。もう下の娘には全く頭が上がりません。母の地味弁当も今思うとオーガニック・エコ弁。自然と健康にヤサシカッタんですね。」

ゆたか先生 子どものころのお弁当といえば、アト4のついたアルマイトのお弁当箱！を思い出します。また、当時は My カップの水筒など持っておらず、(水筒を使うのは遠足のときだけ) お弁当箱のフタにお茶を入れてもらって飲んでいた。中身は前日の残りものおかず+のりごはん。子ども心にサンドウィッチ+デザートを持ってくるクラスメイトがとて羨しかったのを憶えています。(今思うとホンは腹モチが悪いけど) だんぜんゴハンのお弁当が正解だったわけですが) 昭和のお弁当生活も楽しかったですよ♡



ゆき先生 高校生の時、毎週月曜日のお弁当が焼きそばだったことをよく覚えています。父、母、三姉妹のお弁当を毎日作っていたお母さん。当時は母以外、BIGなお弁当箱で、どれだけの量を作っていたのか…。尊敬しています。大学生になってからは、自分で作るようになったものの…上達せざるおいしくもなく、世の中のお母さんてすごいなーと、改めて思いました。そして、時々、友達や友達のお母さんが作ってくれるお弁当がとて嬉しかったのも覚えています♡ でもやっぱりお母さんの味が1番です♡

あさみ先生 采女が通っていた弘か米屋(表)では、週に1日おにぎりの日(表)があってその日は、近くのネ申社だったり、公園に出掛けてそこでごはんを食べていました。そんな遠足気分を味わえる日(表)が采女は大女子までいつも楽しみにしていました！また、お母さんのお弁当のおかずが大好きだったのが、「ひじき」で「お弁当なに作るかな？」とお母さんが言うと、「ひじきでーよー」と毎回返していたそうです♡
今でも、ひじきは大好きです♡